

2008 年度

科目名 宗教学 B	対象学科・学年 文学部全学科 1 回生 教育教福 1 回生 人間人社 1 回生	担当者 貫名 議
授業テーマ 日本仏教と、親鸞の説いた仏教		
授業の概要と目標 仏教が日本に伝わってからを見ていきます。仏教と人との関わり、時代ごとの特徴の流れにそって見ていきます。具体的には、日本仏教の基礎を確立した聖徳太子の仏教観、奈良・平安時代の仏教と鎌倉新仏教の特徴の違い、そして大乘仏教の真髓を究極のレベルにまで高めた親鸞の仏教観を順番にうかがっていきます。最終的にどのような形で親鸞が受け止め・展開していったのかを 1 人 1 人考えて欲しいと思います。		
評価方法 筆記試験（60％）、出席状況・授業態度（40％）の総合評価で行います。		
テキスト 経験論の宗教学	著者 荻野 勝行 貫名 議	出版社 杉山書店
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 ① はじめに ② 日本仏教の興り ～日本人は仏教をどう受けとめたか？～ ③ 聖徳太子の仏教観 ～聖徳太子の目指したもの～ ④ 南都（奈良）仏教の特徴 ～国家と仏教～ ⑤ 平安仏教の特徴 ～仏教の理想と現実～ ⑥ 鎌倉新仏教 ～仏教再建の志を持った、熱き人たち～ ⑦ 親鸞の生涯① ～生き様～ ⑧ 親鸞の生涯② ～人に与えた影響～ ⑨ 親鸞の思想① ～親鸞が信じた仏～ ⑩ 親鸞の思想② ～善人よりも悪人が救われると説いた親鸞の人間観～ ⑪ 親鸞の思想③ ～仏を信じるとは？ 仏道の果てにあったものとは？～ ⑫ 親鸞の思想④ ～仏教と家族の関わり～ ⑬ 親鸞の思想⑤ ～わたしもあなたも同じなかま～ ⑭ まとめ ⑮ 試験		